

令和7年度第1回長崎市社会教育委員会議の協議結果について

1 日 時 令和7年7月10日（木）18時30分から20時30分まで

2 場 所 長崎市役所5階 第3委員会室

3 出席者 委 員 9人中7人出席

事務局 生涯学習企画課長、同課地域学習係長、職員1人

4 議事内容

(1) 諮問に対する答申の構成について

(2) 意見交換

5 主な意見

(1) 地域のつながりの希薄化の原因・課題

- ・単純に人口が減っていること、少子化になっていることで希薄化というよりは地域の存続が危うくなっている。

- ・親も忙しく子どもも部活中心になるなど、土日の休みのときなどは地域の行事よりも家族の時間を優先している場合も多いのではないかな。

- ・スーパーに行かずともインターネットを使って買い物をしたり、クラウドファンディングをしたり、自分の周辺に住んでいる人に頼らずとも、必要なものは自ら得ることができる社会になっている。

- ・SNSが発達して、オンラインで簡単にコミュニケーションやイベントへの参加ができるようになってきている。

- ・独居老人の方が回覧も配れないなど何もできないという理由で自治会を抜けてしまい、回覧板をまわすだけでも安否確認ができ、安全確認、防犯、防災の観点でも地域のつながりは大事。

- ・その地域に誰が住んでいるかわからなくなっている。個人情報

報保護の観点で誰が住んでいるかも言いづらくなっている。

(2) つながりが強い地域とは

- ・ 魅力ある人がたくさんいるとつながっていくと思う。
- ・ コミュニティナース（地域住民と関係を築き、地域を活性化させるような働きかけをする人）を育成し、地域のつながりたい人とつながりたくない人をつないでほしい。
- ・ 樺島町のコッコデショなど自分が住んでいる地域に誇りがある地域はつながりが強い。
- ・ 少人数になるとつながりが強くなる。組織自体を小さくしていくことで自分のやれることややるべきことがわかりやすくなるのではないか。役割分担をしすぎると、一定の誰かに任せてしまい流動性がなくなり、つながりが弱くなる。

(3) 地域、学校、家庭の連携について

- ・ こどもたちから地域へのアプローチがあると、連携しやすいのではないか。自分が住んでいる地域を良くするにはこういうふうにしたいというこどもたちの提案をひとつでもいいので実現できたら、こどもたちも嬉しいと思う。その提案を実現するためにこどもたちのためと思って大人が結束すると思う。
- ・ こどもたちの要望を大人が考えて、実施するこども中心の社会・まちづくりというものに取組んでいるまちがイタリアにある。
- ・ 小学校で行く社会科見学を地域に焦点をあてた社会科活動みたいなものにすると面白い。

(4) 地域のつながりを強くする社会教育の役割

- ・ 社会教育というものが漠然としているが、例えばダンスやコーラスなどで、自分たちが楽しく学んでいて、自分にベクトルが向いているが、そのベクトルをほかの人、地域に向けていき、自分のため

だけではなく、周りに影響を与えていく役割を担ってほしい。

- ・ こどもからダンスやスマホを教えてもらったり、絵が得意な人が講師になったり、社会教育は、誰でも先生になれるということも十分にある。また、こどもが先生になることで、教えることの楽しさを知ることできる。

- ・ 大学生には、地域のイベントの情報が来ないので、情報が来れば地域に出向いて手伝いをする人は多いと思う。一方で、地域側もどう声をかければいいのかわからないため、お互いをマッチングするものがあればいい。

(5) 答申の骨子（案）について

- ・ 学校というのが学校教育の学校という感じがするので、コミュニティスクールであったり、大学生であったり、とりこぼれている気がする。

- ・ 地域のつながりの希薄化の「原因」は難しいので、「課題」だけであれば、意見がより出ると思う。

- ・ 2（2）「つながりが強い地域とは」では、他都市等の事例をあげたほうがいいと思う。